

研究課題名：接触感染対策の遵守率と対策対象患者の病床配置についての観察的前向きコホート研究

・はじめに

世界的に多剤耐性菌が問題となっており、日本においても報告が増えてきています。多剤耐性菌を拡大させないためには接触感染対策を行うことが重要ですが、医療機関での接触感染対策が守られている割合はこれまでの研究でも22～79%と施設によって差があり、その割合を高く維持するために取組が必要です。病棟内で接触感染対策を必要とする病室はランダムに存在しており、それら対策が必要な病室の散らばりが、感染対策が守られている割合と関連するかどうか検討します。

・対象

群馬大学医学部附属病院において2015年倫理委員会承認日から6か月間に、接触感染対策が必要な病室へ出入りする医療従事者です。患者さんや面会の方は対象としません。

・研究内容

群馬大学医学部附属病院で接触感染対策が守られている割合と、接触感染対策を行っている病室の分布に相関があるのかどうか、調査をします。接触感染対策が守られているかどうかについては、医療従事者の手指消毒や手洗いの有無、手袋やエプロンの取り扱い状況、病棟での物品配置の状況などを院内感染対策チームが病棟を訪問している際に記録します。接触感染対策を行っている病室の分布は電子カルテシステムから情報収集します。

この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。

・個人情報の管理について

個人情報漏洩を防ぐため、群馬大学感染制御部においては、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、対象者である医療従事者を特定できる情報は一切含まれません。

・研究期間

研究を行う期間は医学部長承認日より 2018 年 6 月 30 日までです。

・医学上の貢献

本研究により対象となる医療従事者が直接受ける利益はありませんが、将来研究成果は院内感染対策の効率化などに貢献し、院内感染発症を防ぐことにより、多くの患者さんの健康や病院の効率的なシステムづくりに貢献できる可能性が高いと考えます。

・利益相反に関する事項について

この研究の利害関係については、群馬大学利益相反マネジメント委員会の承認を得ます。また、この研究過程を定期的に群馬大学利益相反マネジメント委員会へ報告などを行うことにより、この研究の利害関係について公正性を保ちます。

・研究機関

群馬大学医学部附属病院感染制御部

部長 徳江豊（責任者）

副部長 奈良誠人

医員 馬渡桃子

助教 小磯博美

群馬大学医学部附属病院看護部

看護師長 小淵俊子

看護師 大嶋圭子

群馬大学医学部附属病院検査部

検査技師 高橋美紀

群馬大学医学部附属病院薬剤部

薬剤師 木下綾子

薬剤師 長嶺歩

薬剤師 八島秀明

連絡先：〒371—8511

群馬県前橋市昭和町 3-39-15

Tel：027-220-7111

担当：馬渡桃子